



25年の歩み

福祉と健康の村づくり

平成2年に社協が法人化され、今年で25年目を迎えます。“ひとりひとりが尊重され、いきいきと輝く”福祉の村づくりをめざして…福祉と健康の村づくりの25年を振り返ってみました。



3年度

ボランティア事業がスタート…ボランティア活動の定着と住民参加による「福祉の村づくり」を推進。
 ティ・ホーム(現ティサービス)や、ひとり暮らし世帯の方への
 友愛訪問などもスタート



5年度

高齢者エアロビクス教室がスタート(6月)
 …一般高齢者が参加できる人気事業に



7年度

通院サービスが整備される…木曽病院
 等への通院サービスが登録制に



2年度

社協が法人化…診療所隣りに「ふれあいセンター」を開設。
 給食サービス(現お楽しみ弁当)やデイサービス(同いきいきサロン)を月1回実施。介護サービスでは家庭奉仕員(ホームヘルパー)の派遣や入浴サービスを実施。心配ごと相談やボランティア講座、介護講習会などの諸事業が行われる。
 法人化当初のボランティア登録者は26名。



4年度

ボランティア活動も徐々に定着し、
 各事業が軌道に



6年度

どんぐり広場が発足(5月)…子どもたちの遊び場と子育ての情報交換の場に
 阪神大震災被災地にボランティアを派遣
 …5回に渡り、老人ホームで炊き出しや演奏活動



介護講習会 H9.7.3

郡身体障害者福祉大会が王滝村で
開催(5月)／長野冬季パラリンピック
開催…聖火が木曽谷へ

9年度



福祉・健康の集い〜王寿会寸劇 H8.6.16

王滝小中学校が社会福祉協力校の
指定(3年間)…福祉体験教室や講演
会、障がい者交流会などを企画。

8年度



いきいきサロン〜お花見 H10.5.26

介護保険制度導入後のサービス展開
について検討…介護保険サービス事業
所の指定や保健福祉センター開設に
向け準備作業を行なう。

11年度



福祉・健康の集い〜小学生の手作り楽器 H10.9.6

平成12年度の介護保険制度導入に
向け定期的に勉強会を開催

10年度



デイサービス〜小学生とほろ葉巻 H13.6

デイサービスの営業が週4日に
訪問介護サービスの営業時間も延長
配食サービスを週2回に
…各種サービスの提供体制を充実。

13年度



保健福祉センター落成 H12.4

保健福祉センター「よらまいか」完成
…センターに社協の事務所を移転。
介護保険制度が始まる…「措置」か
ら「契約」に、国の福祉サービスの枠組みが見直される。
デイサービス、訪問介護サービス、居宅介護支援事業の
営業を開始／生活支援や介護予防などの新たな事業
がスタート…現在のサービスの枠組みができる。

12年度



木曽郡7町村社協合併協議会が設立(7月)
 …町村社協の事業の擦り合わせが行われる。
 生活支援ハウスの運営受託…6月より新たに入居者
 障がい者ホームヘルプ事業を開始(6月)
 ぐたくらぶがスタート…男性高齢者の生きがいをづくりを支援
 居宅介護支援事業所の営業を1年間休止…有資格者の
 確保ができます。
 2級ヘルパーの養成講座を開催…19名が資格を取得し、
 新たな介護の担い手に



訪問介護サービスで祝日の営業
 今後の社協のあり方考え、勉強会開催(10月)
 …村の財政逼迫の中、県社会部と県社協から講師を招き
 今後の運営を検討。



デイサービスで祝日の営業開始
 訪問介護サービスの利用が大幅に増加
 …独居世帯を中心に前年度より27%増加する。
 職員減員の中、厳しい運営状況に



デイサービスの営業が週5日に(7月)
 訪問介護サービスで土曜日の営業
 開始(10月)



木曽郡7町村社協合併協議会が
 解散(8月)
 配食サービスが週5日に、昼食と夕食
 もお届け
 補助金削減の中、厳しい財政状況に迫られる



新たな介護予防事業がスタート
 …生活支援サービスは国の交付金の
 対象から外れ、村の単独事業に
 有償運送サービスがスタート…新たに独居世帯の方などの
 送迎サービスを整備。
 各種サービスの利用料も見直し…厳しい財政状況の中、
 利用者負担を大幅に見直し。



郡ボランティア・地域活動フォーラム H21.6.27

21年度

村の人口が1,000人を下回る。
登録ボランティアに5つの新メニューが
登場…サロン活動などの新たな取り組みがスタート
郡ボランティア地域活動フォーラムが王滝村で開催(6月)
認知症サポーター養成講座を開催(10月)



滝越地区サロン H20.6.26

20年度

滝越も皮切りに、地区情報交換会が
スタート(6月)…新たな地域福祉のあり
方や支え合い活動のあり方を模索。
地域のながでの認知症に対する理解や、支え合い
のあり方が課題に



お楽しみ弁当勉強会 H23.10.6

23年度

いつまでも住み慣れた地域で!～社協
中期目標も策定…持続可能なサービ
ス提供体制の構築などを目標に
行政と協同で、おたき『安心』プランも策定
村と共催で地区サロンを開催(10月)



ふれあい元気教室～音楽教室 H22.12.16

消火栓

22年度

ふれあい元気づくり教室がスタート
…「笑って、たのしく、健康づくり」
音楽教室も取り入れ、エアロビ教室から新たに再出発。
行政と協同で、独居世帯の生活実態調査を実施(8月)



上条情報交換会～防災マップづくり H25.10.29

25年度

お楽しみ弁当に年2回の特別企画
…春と秋に特別メニューをお届け
デイサービスの食事費用を軽減措置
…介護世帯の負担軽減の試み
共同募金に公募配分が導入…地域の支え合い活動の
新たな財源に



第1回ふれあい交流会 H24.10.4

24年度

障がい者ふれあい交流会も新たに
開催(10月)
配食サービスの利用が大幅に増加
…独居世帯の方などの生活支援が地域の課題に
行政と協同で、要援護者の支援体制を模索

社協 25 年の歩み 平成 2～26 年度

	社協の歩み	説 明	村のできごと
平成 2 年度	<p>社会福祉協議会が法人化（社会福祉法人に）（4 月） 給食サービス（現お楽しみ弁当）やデイサービス（現いきいきサロン）を月 1 回実施 介護サービスでは、家庭奉仕員（現ホームヘルパー）の派遣や月に数回の入浴サービスを実施 心配ごと相談（隔月）やボランティア講座、介護講習会などの諸事業が行われる。 第 1 回社会福祉大会が開催（10 月）</p>	<p>診療所隣りに事務所「ふれあいセンター」を開設 会食会は給食サービスの一環として実施。</p> <p>社協内に特殊浴槽設備を整備</p> <p>当初のボランティア登録数は 26 名</p> <p>「ともに生きる福祉の村づくり」をテーマに住民参加のシンポジウムを開催</p>	<p>人口 1,239 人</p> <p>ハブル景気が終わる 王滝診療所が下条区に完成 村民憲章／村木・村花 第 1 回公民館祭り 松原スポーツ公園竣工</p>
平成 3 年度	<p>福祉の村づくり、ボラントピア事業がスタート</p> <p>デイ・ホーム（現デイサービス）やりハビリ教室を月 1 回開催。独居世帯等への友愛訪問（現軽度生活援助サービス）や訪問看護事業もスタート 福祉・健康の集いを始めて開催（10 月）</p> <p>福祉推進委員が各地区に設置</p>	<p>ボランティア活動の定着と住民参加の福祉の村づくりを推進</p> <p>社会福祉大会に合わせ、村民参加によるコーナーやチャリティーバザー等も開催 村民と社協のパイプ役に</p>	<p>待望の温泉が湧き出る 中越区に終末処理施設が完成 御嶽山で 2 回目の噴火</p>
平成 4 年度	<p>ボランティア活動も徐々に定着し、各事業が軌道に 福祉・健康の集いでは、大道芸のパフォーマンスショーなども企画され盛大に行われる。（10 月）</p>		<p>敬老会の対象年齢が 70 歳から 75 歳に引き上げ おんたけスキー場来客が 60 万人突破</p>
平成 5 年度	<p>高齢者エアロビクス教室がスタート（6 月）（9 月） 在宅介護者の支援にリフレッシュ事業がスタート 村長と福祉を語る会を開催～ボランティア会議（2 月）</p>	<p>一般の高齢者が参加できる人気事業に</p>	<p>王滝の湯オープン 学校でコンピューター教育</p>
平成 6 年度	<p>どんぐり広場が発足（5 月） 社会福祉大会では「誰もが住みよい村づくり」をテーマに、住民参加のシンポジウムを開催（6 月） 阪神大震災被災地へボランティア派遣（2～翌 6 月）</p>	<p>こどもたちの遊び場と子育ての情報交換の場に</p> <p>5 回に渡り、老人ホームで炊き出しや演奏活動</p>	<p>西部地震 10 周年追悼慰霊祭 第 1 回村民御嶽登山 阪神淡路大震災発生（1 月）</p>

	社協の歩み	説 明	村のできごと
平成7年度	通院サービスが整備される（9月） 「ふーちゃん」こと富永房枝さんによる阪神大震災チャリティーコンサートを開催（6月）（福祉・健康の集い）	木曽病院等への通院サービスが登録制に	中学生が海外研修でオーストラリアへ おうたきたんさくらぶ発足
平成8年度	小中学校が社会福祉協力校の指定（3年間） 福祉・健康の集いでは、諏訪中央病院の鎌田實先生の記念講演や、老人クラブによる寸劇「まだボケてはいませんよ」などが催される。（6月）	体験教室や講演、障がい者交流会などが計画 講演会では、福祉や医療における「自己決定」の大切さをともに考える。	人口1,188人 成人式を夏に開催 御嶽太鼓「岳響」誕生
平成9年度	郡身体障害者福祉大会が王滝村で開催（5月） 冬季パラリンピックの聖火が王滝村へ（2月）		「フォレスト・パル王滝塾」開設 役場事務がコンピューター化 長野冬季オリンピック開催
平成10年度	介護保険事業の導入に向け定例的に勉強会を開催		牧尾ダム堆砂工事開始 村のマスコットが「どんぐり」に
平成11年度	介護保険事業導入後のサービス展開について検討 介護サービス事業所の指定や保健福祉センター開設に向けて準備作業を行う。		下条田中さんが村で初めて100歳に 万年ずしが県選択無形文化財に 第1回どんぐり祭り 木曽広域連合発足
平成12年度	社協事務所を保健福祉センターに移転（4月） 「措置」から「契約」に！ 国の福祉サービスの枠組みが見直される。 介護保険サービス開始／デイサービス・訪問介護サービス・居宅介護支援サービスの営業開始（4月） 生活支援や介護予防等の新たな諸事業がスタート（4月）	デイサービスは週3日からスタート 配食サービスや外出支援サービスなど、現在の諸事業の枠組みができる。	保健福祉センター「よらまいか」完成（4月） 小学校教科書「山地の人々の暮らし」で王滝村が紹介 「王滝・滝越りんてつまつり」開催 新大岩橋が竣工
平成13年度	デイサービスの営業が週4日に（9月） 訪問介護サービスの営業時間を延長（10月） 配食サービスが週2回に（4月）		王滝最後の肉牛が出荷 初の女性消防団員誕生 王滝の湯利用者が10万人突破

	社協の歩み	説 明	村のできごと
平成14年度	デイサービスの営業が週5日に（7月） 訪問介護サービスを土曜日も営業開始（10月）		スケルトン越選手冬季五輪出場報告 新六段橋が開通 郡中北部7町村で任意合併協議会
平成15年度	木曽郡7町村社協合併協議会が設立（7月） 生活支援ハウスの運営受託（6月） デイサービスの営業時間を延長（3月） 障がい者ホームヘルプ事業開始（6月） 居宅介護支援事業所を1年間営業休止 ごたくらぶ が新たにスタート 2級ヘルパーの養成講座を開設（11～3月）	町村社協事業等の擦り合わせが行われる。 6月より新たに入居者。4名が順次入居 有資格者（ケアマネ）の確保できず 男性高齢者の生きがいづくり支援 19名の方が資格を取得し介護の担い手に	郡7町村法定合併協議会設立 公民館改修 自然湖でカヌーツーリング
平成16年度	木曽郡7町村社協合併協議会が解散（8月） 補助金削減の中、厳しい運営状況に迫られる。 配食サービスが週5日に。昼食と夕食をお届け（4月） ミニ児童館の利用が定着	運営補填のために基金等から2年連続取崩し 小学校低学年までの子どもたちの遊び場に	郡7町村法定合併協議会解散 西部地震震災20年記念碑を建立 新潟中越地震に職員派遣（10月） 村観光協会が観光総合事務所に
平成17年度	「今後の社協」のあり方考え勉強会開催（10月） 訪問介護サービスの祝祭日営業開始（4月） どんぐり広場、エアロビクス教室が年会費制に	県社会部・県社協から講師を招き今後の運営検討 地域福祉事業の負担のあり方を見直し	財政非常事態、スキー場を民間委託 住民投票で村議会解散 滝越代替バス廃止、公共交通を見直し 村身体障害者福祉協会が解散（4月） 森林鉄道フェスティバル、林鉄を復元
平成18年度	新たな介護予防サービスがスタート（4～10月） 有償運送サービスがスタート（4月） 各種サービスの利用料を値上げ 「あなたの望む地域の介護は？」実態調査実施（9月）	生活支援サービスは村単独事業の方向性に 新たに独居世帯等の移動手段を整備 厳しい財源状況の中、利用者負担を大幅に見直し	人口1,067人 地域包括支援センターが設置 公民館で放課後くらぶが開設 財政難で敬老会・村民運動会を休止
平成19年度	訪問介護サービスの利用が大幅に増加 デイサービスの祝祭日営業開始（4月） 職員削減の中、厳しい運営状況に	独居世帯を中心に前年度より27%増加 従前より常勤職員3名減員	住民参加で長寿を祝う会が開催（10月） 御嶽神社資料館オープン
平成20年度	滝越を皮切りに地区情報交換会がスタート（6月） 認知症の地域理解、支え合いのあり方が課題に	新たな地域福祉のあり方を模索	王滝村が財政再生団体に 後期高齢者医療制度開始 子育て支援スクールカーを試験運転

	社協の歩み	説 明	村のできごと
平成21年度	登録ボランティアに5つの新メニュー（6月） 郡ボランティア地域活動フォーラムが王滝村で開催 老人クラブの皆さんと共催で介護教室を実施（5月） 認知症サポーター養成講座を開催（10月）	サロン活動など新たな取り組み	人口986人～1,000人を下回る
平成22年度	ふれあい元気づくり教室がスタート（4月） 村と協同で独居世帯の実態調査を実施（8月） 松本市の社協より視察研修（6月）	音楽療法も取り入れ、エアロビ教室から再出発 災害時の支え合いのあり方をともに考える	財政健全団体の指定 村内巡回バスが運行開始（4月） 東日本大震災に全国で支援の輪（3月）
平成23年度	いつまでも住み慣れた地域で！社協中期目標を策定 村と協同で、おうたき『安心』プランを策定 村と共催で地区サロンを実施（10月）	持続可能なサービス提供体制の整備等を目標に 10点の重点項目を取りまとめ	スキー場を村営で営業 村のゆるキャラ「くりピー」誕生
平成24年度	配食サービスの利用が大幅に増加 障がい者ふれあい交流会を新たに開催（10月） 村と協同で要援護者の支援体制を模索	独居世帯等の生活支援が課題	スキー場を共同出資会社が営業、スキー場の債務完済 山村交流センターが休止
平成25年度	共同募金に公募配分が導入 お楽しみ弁当で年2回の特別企画（5月／9月） デイサービスの食事費用を負担軽減	住民参加の福祉活動の新たな財源に 春と秋に新たに特別企画	人口897人 村婦人会が活動休止
平成26年度	ひとり暮らしよらまい会が開始（7月） 心配ごと相談に新たに「介護＆福祉サービス相談」	独居世帯の交流・相談の場として新規事業	西部地震震災30周年 木曽災害時医療救護訓練を王滝で開催